

「ラウンジ写真館」への想い

東日本大震災から程なく、エンディングノートセミナーの定期開催を計画した清月記。

「死」に関して大きなインパクトを受けた地域であるからこそ、万一のことを考える大切さを実感している方が増えているのではないか、しかし、こうした時期にセミナーに参加くださる方はいらっしゃるのか、まさに手探りとも言える状況からのセミナー再開でした。

「清月記がエンディングノートのセミナーをやっている」
そうした情報は徐々に伝わり、外部から「講師として来てほしい」というご依頼が継続的に入るようになりました。震災後にセミナー対応で出向いた場所は県内90ヶ所を超えます。

セミナーに行く先々で「清月記さんで遺影写真は撮ってもらえないの？」と声をかけられるようになりました。その真剣な様子を思い返す度に、「そうした希望に何とかお応えしたい」と心が動いていきました。

自分のエンディングを考える上で、自分らしい写真の準備は欠かせません。
自分とのお別れのために来てくださった方々を、「〇〇さんらしいね」と言ってもらえるような写真でお迎えしたい。

「清月記さんで遺影写真は撮ってもらえないの？」という言葉の背景には、こうした気持ちがあるように思えてなりませんでした。そして、それは弊社へ託された使命のように感じられたのです。

しかし、葬儀社が企画する遺影撮影会に参加してくださる方は本当にいらっしゃるのか？
募る不安を払しょくできずにもいました。

ちょうどその頃、取材撮影を通して、写真家 茅原田 哲郎さんと出会います。

茅原田さんが撮影される人物写真には、その人らしい自然な表情が写し出されていました。
どんなに緊張した人でも、茅原田さんが話しかけながら撮影すると、笑顔をカメラに向けていました。

「そうだ、茅原田さんに相談してみよう」

回答は、即OK。

その理由については茅原田さんのメッセージをどうぞご覧ください。

こうして両者の想いが合致して、
2013年10月に「プロが撮ります！ラウンジ写真館」が誕生しました。

それから早1年半以上が経ち、200名以上のお客様の写真を撮らせていただきました。
大きなガラス窓から差し込む自然光だけで撮影された写真は、多くのお客様に支持され、その仕上がりにご満足いただいています。

あなたらしい最高の一枚は、ぜひ「ラウンジ写真館」にお任せください。
茅原田氏と私たちの想いが皆様に届きますように。